

表紙に使用している画像は、小川和紙の「花入り漉き込み紙」です。和紙職人のおしゃれな計らいから生まれた和紙で、和紙のふるさと小川町の豊かな清流と里山を感じることが出来ます。和紙に合わせてあしらった2色は葡萄色と麴塵色。山葡萄の熟した実のような赤紫色と古来より日本酒の醸造に活用されてきた、種こうじに由来する緑色です。

令和3年度 P.2-3
一般会計歳入歳出決算

98億 3256万円の
評価と期待
議員の注目事業を追跡

P.8-9
こども医療費助成の
拡大

これからは
これまでとは
15歳→18歳

子どもの命を守る×子育て支援

来春に有機農業家デビュー!!



有機野菜が大好きな中島さん家族（裏表紙に関連記事）

No.105 おがき 2022 9月定例会 おがき 埼玉県小川町議会

わたしのひとこと



季節を感じさせる
デザインが素敵
ですね。毎号楽
しみにしています!

中村美枝子さん

町民の声
「聴きます×つながります」

町を訪れる方
には、温かい心
で迎え「小川町大
好き」の絆を感
じてほしいです。

山下勝三さん



P.10~15
一般質問

11 議員が質す

持ち時間 75 分の論戦



議員が質した聞いてわかった

私たちの町、どうなってる？

相変わらずのコロナ禍に振り回された令和3年度を振り返り、主な質疑をピックアップします。

令和3年度一般会計決算

コロナ禍の老人クラブ事業

Q 令和2年度に引き続き、老人クラブ連合会への補助金が減額となったが背景等は。

A 連合会主催の大きな事業である「ゲートボール大会」や「グラウンドゴルフ大会」とあわせて「趣味の創作展」等が「コロナ禍の影響で中止になったことが主な要因です。」

室外の活動は少しずつ動き始めました。各地区のグラウンドゴルフの練習会などは活発に行われ、10月には町と連合会共催の大会が実施できました。

活動再開

小川町老人クラブ連合会会長
田端大久貴さん（腰上）



ごみ減量化対策

Q 民間委託による可燃ごみ処理の開始に向けて、令和3年度はどのような取組が図られたのか。

A 出前講座等の実績として、4回実施しました。主に、環境美化推進委員の職務をはじめ、雑誌の出し方や家庭ごみの分別、令和4年度から変更となる可燃ごみ処理の方法などについて説明しました。

移住サポート×観光案内

Q 駅前新たに開設された「むすびめ」の実績等は。

A 令和3年度から駅前に開設した「むすびめ」に機能を移転する中で、移住希望者の総合窓口として、専門の移住コーディネーターを配置し、ワンストップの支援に努めています。また、観光案内所と連動し、おがわ農産物の販売や着物レンタル・着付けサービス、

令和3年度
一般会計 歳入 歳出 決算

議員が

98億3256万円

認定

注目した事業 となった？

令和3年度当初予算で、16議員が注目した新規事業や継続事業を注視し、追跡してきました。町民の声も参考に、それぞれの取組について「評価」と今後の「期待」を込めて報告します。

期待

注目事業 2

魅力発信拠点 「むすびめ」

決算 1,302万円



駅前に観光案内所と移住サポートセンターを移転したことで、来訪者が2万人を超えた。魅力発信の拠点として、さらなる事業展開に期待したい。

期待

注目事業 3

地域の担い手×新しい働き方×関係人口創出

石蔵サテライト オフィス NESTo

決算 256万円



登録会員数は法人2社、個人581人（令和4年8月末）。イベント等の活用で新たなにぎわいも生まれている。コロナ禍における新しい働き方の実践の場に期待。

注目事業 1

おがわ学（地域学）の構築

決算 169万円



町の自然・文化・歴史に精通した地域の方を講師に招き、地域課題の解決に取り組んだ。小・中・高の連携の中で、地域人材の育成につながっている。新たな展開も。

大人向けのおがわ学に初めて参加し、有機農業について深く知ることができました。本当に感動しました。小川町の有機農業は世界に通用します。次回も楽しみです！

柳 辰夫さん（木部）

目から鱗



監査委員の意見（抜粋）《経営感覚をもった行政運営を》

議会選出監査委員
大戸久一議員



町民福祉の
向上を

人口減少や未曾有のウイルスの影響による歳入減を公共サービスの質や量に転嫁しない工夫など、経営感覚をもった行政運営が求められている。また、一回限りや一過性の事業展開にとどまらず、中長期的な視点で新たな取組につながる等の仕組み作りが重要である。引き続き、厳しい財政運営の中、限られた財源で最大の効果が得られる効率的な行政システムを確立し、町民福祉の向上に資するよう期待するものである。

代表監査

松本治雄

中長期的な
視点を



「ここ」を 評価

- 歳入 ふるさと納税
「企業版ふるさと納税の推進」
- 歳出 健康ウォーキング
「コロナ禍の健康づくりに成果」
- 歳出 新型コロナウイルスワクチン接種
「個別・集団ともに混乱なく実施」
- 歳出 環境基本計画
「町独自の取組を反映」
- 歳出 国土強靱化地域計画
「防災・減災対策の推進」
- 歳出 公共施設等総合管理計画の見直し
「経費0円で職員が自前で作成」
- 歳出 地域PR推進
「官民連携によるシティプロモーション」
- 歳出 ひとり親世帯応援給付金
「町独自の支援を迅速に実現」

さらに「ここ」を 期待

- 歳出 GIGAスクール
「個別・適正な指導の充実を」
- 歳出 東小川学校跡地利活用
「地域住民の声が反映された利活用を」
- 歳出 地域おこし協力隊
「任期満了後も町に住み続けてもらう取組を」
- 歳出 森林経営管理
「森林の総合的な利用の促進を」
- 歳出 病児保育
「利用しやすいシステムの構築を」



小川町議会だよりは

町民登場に「タワル」

広い年代の皆さんに、たくさん登場していただきます（裏表紙も）ご覧ください。

小川町には現在6人の地域おこし協力隊がいます。各々が別の分野で精力的に地域の人たちと関りながら活動しています。写真の木谷海斗さんは、LINE「小川町情報スモリバ」での情報発信や若者未来会議の運営などを担当しています。



小川町情報スモリバ
LINE

産業・生活について学び、教材の開発を進めてきました。今後は、一例として小学生は大豆の栽培から味噌作りを体験し、中学生においては、それに関連して微生物の役割や調理実習などに取り組むといった小中の連携を図っていきます。また、「おがわ学セミナー」と

題して、大人を対象とした展開を進めています。

地域おこし協力隊の活躍

Q 任期満了後の隊員がその後も当町との関わりを保ち、定住や起業といったことにつながる取組や活動はされているか。

題して、大人を対象とした展開を進めています。

ひなの
1歳です

子育て中の多くの皆さんにご利用いただきたいです。
熊坂和代さん
(小川っ子保育園・看護師)



Q 事業開始初年度の実績や効果など、振り返りを。

A 令和3年5月に新たに開園した民間保育施設のサービース・機能として開始されました。初年度の利用登録者は32人で、利用者の延べ人数は4人となりました。看護師の常駐を要する当該事業を開始できたことは、当町の子育て支援策の充実が図れたものと考えてい

民泊との連携など、多角的なサービースを展開しているところです。令和3年度における移住者の実績は、37組68人となりました。

ます。引き続き、ひとり親家庭や祖父母の支援を受けることが困難な共働き世帯を中心に、事業の周知に努めていきます。

キャッシュレス決済の導入支援

Q コロナ禍を背景に、町内事業者に対してキャッシュレス決済の導入支援が図られたが、効果の程は。

A 令和2〜3年度にかけて実施し、1件当たり5万円で70件の申請について支援しました。キャッシュレス決済の導入経費は、決済事業者の負担となりますが、その後発生する決済手数料などは導入事業者の負担となりますので、そのランニングコストに着目し、支援したものです。当町に多数ある小規模店舗に対し、キャッシュレス決済の導入が進んだものと捉えています。

新しい働き方の拠点・ネスト

Q 国・県の補助を受けて生まれ変わった築100年の石蔵。コロナ禍で身近になったテレワークの推進など、事業の進捗や効果は。

A 築100年の石蔵・樹齢100年の町産杉の大テーブル・クラ



キャッシュレス決済の導入により、スピーディーな会計ができるようになりました

ウドファンディングによる新ストープと床暖房など、落ち着いた雰囲気です。テレワークができることから、多くの利用者から高い評価を受けています。令和3年度の実績としては、登録者が444人で、利用者同士の交流を生むイベント等も行いました。

おがわ学の構築と展開

Q 当町の特徴ある教育として注目されている「おがわ学」の取組と今後の展開は。

A この3年間、小中学校では地域の方々の協力を得て、当町の豊かな自然・歴史・文化・伝統や、

A 現在、一人はLINEアカウン「小川町情報スモリバ」による情報発信に取り組んでいます。もう一人は、「コワーキンググロービースト」の運営支援等に従事し、会員とともに地域関わり隊として、イベントの企画・運営を行っています。いずれも、それらの取材や情報収集等を行う中で町民との交流が生まれ、地域の特色や文化に触れるとともに、任期満了後を見据えて地域に根差した取組を進めています。

とどまった。今後の公共施設の老朽化対策や統廃合に係る費用負担の大きさを考えると、当該基金への積み立てはもう少し増額しておいた方がよかつたのでは。

A 公共施設整備基金の残高は2億5000万円程度であり、当該基金で公共施設の整備や適正化に要する経費の全てを賄えるわけではありません。

また、当初予算の編成においては、毎年4億円程度の財源不足を財政調整基金から補っている状況です。整備基金の積み増しについては、あくまでも予算の執行残が生じた際に、財政調整基金との調整の上で検討していきます。

公共施設整備基金の積み立て

Q 財政調整基金に3億9000万円を積み増す一方で、「公共施設整備基金」の積み立ては1億円に

令和3年度特別会計決算

国保加入者の医療費適正化

Q 決算資料で示された国保加入者における疾病の状況や分析等から、医療費の削減についてどのようなアプローチを図っていくのか。

A 糖尿病や心疾患といった生活習慣病の前駆症状にメタボリックシンドロームがあります。現在も取り組んでいる特定健診はそれら



賛否が分かれた議案

議 案 名		議 員 名																審 議 結 果	
		稲村 壤治	鈴木 秀尚	笠原 英彦	高橋 功人	笹本 孝幸	五十嵐 康博	高橋さゆり	本多 重信	高瀬 勉	井口 亮一	笠原 規弘	島崎 隆夫	田中 照子	大戸 久一	根岸 成美	山口 勝士		
令和4年度小川町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	可決
令和3年度 歳入歳出 決算の認定	小川町一般会計	○	○	○	○	○ <small>討論</small>	○	○	×	○ <small>討論</small>	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	小川町国民健康保険特別会計（事業勘定）	○	○	○	○	○ <small>討論</small>	○	○	×	○ <small>討論</small>	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	小川町後期高齢者医療特別会計	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	小川町水道事業会計剰余金の処分及び決算	○	○	○	○	○	○ <small>討論</small>	○	×	○ <small>討論</small>	○	○	○	○	○	○	○	○	認定



一部事務組合議会から報告



一部の行政サービスを複数の市町村が共同で行うための団体が一部事務組合です。構成市町村の議会から議員を選出しています。

ごみ処理・し尿処理

小川地区衛生組合議会 令和4年8月23日

可燃ごみの正しい分別に協力をお願いします

第2回定例会(決算議会)が開催され、令和3年度一般会計歳入歳出決算の認定をはじめ、全4議案を原案のとおり議決しました。また、一般質問などのやり取りでは、令和4年度から始まった「可燃ごみ処理の民間委託」について議論が図られ、当初から懸念されていた「分別に係る変更」など、いくつかの課題が明らかになりました。

なかでも、当初「発酵不適物」の混入目標は、11%以下とされていましたが、事業開始から4か月間での割合は約20%となりました。住民の皆さんに対するさらなる分別意識の向上や、取組の周知を徹底しなければならぬと捉えています。

一方で、8月14日には、委託先のオリックス資源



可燃ごみ収集の新ルールに反して未回収となった草木

循環株式会社の乾式メタン発酵施設において火災が起き、処理が一時滞るなどの事案も発生しました。一般廃棄物を活用した国内最大規模の設備容量を誇る同社の乾式バイオガス発電施設の取組を注視し、再生可能エネルギーや環境配慮型の可燃ごみ処理を推進する中で、官民連携による先駆的な事業に引き続き期待します。

消防・救急・斎場の管理運営・介護・障害審査会・公平委員会

比企広域市町村圏組合議会 令和4年8月9日

補正予算5件、決算認定5件、条例改正2件 全て原案どおり可決・認定

◆トピックス

- 島田康弘小川町長 副管理者に就任
- 7月12日豪雨に比企広域消防が活躍
ときがわ町で2名、滑川町で7名救出

◆一般質問 ときがわ町議会議員 田中紀吉氏

「消防指令業務の共同運用について」

Q 現在の通信指令関連の予算は。

A 10年間の平均で、1年間に1億6000万円程度です。

Q 共同運用になったときの経費は。

A 5000万円程度の減額を見込んでいます。



お金のかからない選挙や候補者間の選挙運動の機会均等を図るために採用されている制度。

令和4年度一般会計補正予算 選挙公営制度の対象が拡大

Q 公職選挙法の一部改正を受けて、5月に行われた小川町長選挙と町議会議員補欠選挙から、選挙公営制度の対象となったが、各候補者からの申請や利用状況は。

A 町長選挙は3人中2人の候補者から申請を受けました。その内1人については、供託物没収点に届かなかったため、選挙公営負担

金を利用することができませんでした。町議会議員補欠選挙は、同様に3人中2人から申請を受け、残る1人からは申請がありませんでした。今回、申請を受けた候補者は、それぞれに、選挙運動用のビラ・ポスターの作成、自動車の使用について利用がありました。

オミクロン株対応ワクチン

Q 初回接種(1・2回目)完了者に対する「オミクロン株対応の2価ワクチン」の接種に要する経費が示されたが、対象者や接種率ほどの程度見込んでいるのか。また、対象となる児童生徒が接種を

受ける際の出欠席の取扱いについては。

A 12歳以上の住民を対象として、その90%となる2万5240人分の費用を見込んでいます。また、接種を受ける児童生徒については、出席停止扱いとし、欠席とはならないように対応していきます。

を抑えるために実施しているものですので、今後もしっかりと努め、医療費の適正化につなげていきます。

Q コロナ禍にあっても各種の取組が図られたとのことだが、振り返りや総括を。

A 介護予防教室については、コロナ対策を講じた上で9教室を開催しました。従前と比べ、各教室とも定員数を減らして実施したと

ころです。また、前年度から引き続き、オンラインによる介護予防事業として、ユーチューブに運動動画を11本投稿しました。はつらつクラブの会場などで運動動画の視聴機会を設け、延べ480人が参加しました。あわせて、百歳体操の会場に向く中で、ズームを活用した運動教室を実施し、各介護予防の取組の普及啓発に努めています。

Zoomの大画面を見ながら介護予防体操に取り組む竹沢地区の元気な高齢者の皆さん。



オンライン
介護予防動画

令和5年4月からこども医療費の対象年齢が18歳まで引き上げられる。
「長年の町民の願い＝議会の要望」が実現される。
小川町が進めてきた様々な子育て支援策について議会目線でチェック！

「長年の町民の願い＝議会の要望」が実現される。

小川町が進めてきた様々な子育て支援策について議会目線でチェック！

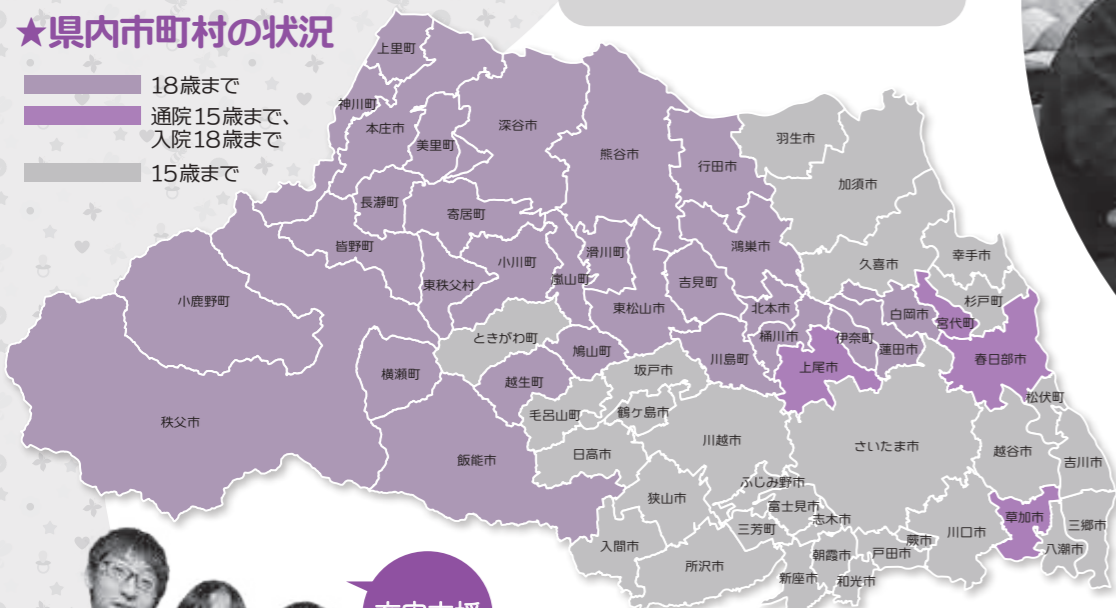
なぜ今まで 進まなかったのか

こども医療費は小学校入学（6歳）まで。中学校卒業（15歳）まで。高校卒業（18歳）まで…。各自治体の施策によって異なる。当町の子育て支援策は他町村に比べて遅れていたわけではない。何に、どのくらいの予算を充てられるのか常に「政策的な判断」があった。

埼玉県内の市町村 の状況は

南部、東部、西部の比較的人口の多い自治体に15歳までが多い。それに比べて、北部、西部の町村は18歳までの自治体がほとんどである。(下図参照)

18歳まで
通院15歳まで
入院18歳まで
15歳まで



充実支援

ココットは子どもの総合窓口
になっているので助かります。

後藤 彩さん(中央)
大輝さん(左側)
優斗さん(右側) (深田)

小学校入学時に就学支援助成金
2万5000円(地域通貨券)を支給

町独自の子育て支援策です。小学校入学時には、様々な準備に多額の費用がかかります。保護者の安心につながる施策のひとつです。

病児病後児保育
町内の私立保育園に設置

働く子育て世代の最大の危機は子どもの病気です。
看護師が常駐し、病気や病後の園児を安心して託せる
場が誕生しました。(医師の診断が必要です)

18歳まで 対象年齢を拡大!!

町独自の子育て支援は

平成30年度にココット（子育て総合センター）を設置し、いち早く子育てについてワンストップでサービスが受けられる体制を整えた。他の自治体では見られない先進的な取組である。

こども医療費の推移は

15歳までの場合と比較して、年間で約1000万円の追加予算が必要。18歳までの人口は減少傾向が続く(下図参照)。人口減少は予算規模の減少にもつながり、こども医療費を恒常的に維持していけるかどうかは課題である。

命を守る
×子育てを支援



小川高校の皆さん

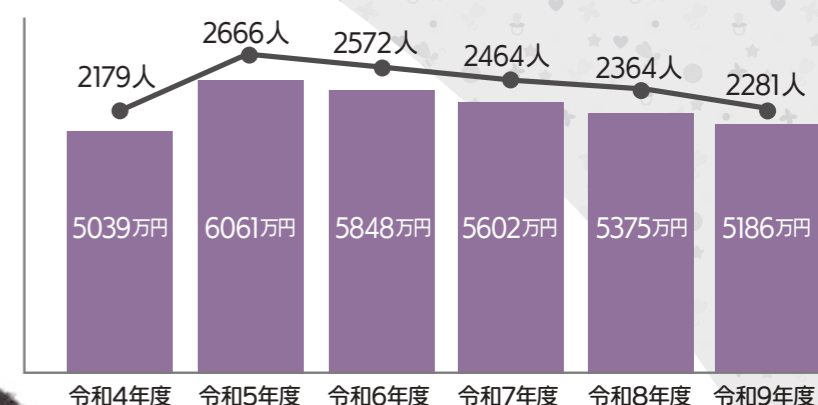
去年は医療費助成の対象外だったので、とても嬉しい。安心感があります!!

佐藤 茜さん(上勝呂)

安心感

優輝さん(高2)

18歳までの人口(●—●)と こども医療費(■)の推移(推計)



※令和4年度の人口は中学生まで、医療費は令和3年度決算額



Gikai's
eye

生きる力が育つ
魅力ある町へ

町は、今までの子育て支援策に加え、こども医療費の助成拡大に踏み切った。子育て世代を町に呼び込み、人口減少に歯止めをかける切り札となるのか、注視していきたい。

こども医療費制度の創設は「子どもの命を守る」ことに大きな狙いがあったが、今、子育て世代が望むことは、全ての子どもが大切にされ、誰一人取り残されないことである。また、働きながら自らの力で子育てできることである。目指すべきは子育ての楽しさが実感でき、子どもの生きる力が育つ魅力ある町ではないだろうか。そのためにも子育て支援と併せて、現在町が取り組む「おがわ学」の深化等、特色ある教育の充実にも期待したい。

◀ 次ページから一般質問！

全質問項目は小川町ホームページから見られます。
議会だよりでは議員ごとに要約版で掲載。全文(会議録)は12月上旬に公開予定です。

11の視点 一般質問

「歩いて・見て・聴いた」ことを踏まえ、議員が自身の提言も交え、町に考えを質す。
今回の一般質問は11人が登壇し、町が取り組む様々な施策について質しました。持ち時間は75分。コロナ禍で粛々と進んだ論戦の一部を取り上げます。

皆さんはどのテーマに関心がありますか？



P.15	P.15	P.14	P.14	P.13	P.13	P.12	P.12	P.11	P.11	P.10
空き家対策	学校給食費	学校再編	RVパーク	移住・定住	買い物支援	町民会館	地域通貨	太陽光発電	鎌倉街道上道	農泊事業

農泊事業



たかせ つとむ 高瀬 勉議員
が町に問う！

**農泊の取組で
魅力の発信を**
答弁 先行事例等を
研究していきます

Qすでに町内では、各所で有機農業を核とした体験プログラムの実践や、移住サポートセンター機能の充実などで、移住・定住の実績も多くある。それらを町のリーダーシップで集約・連携し、「農泊」を展開する体制整備の構築を。

A政策推進課長 農泊のビジネス展開については、町の未来を切り開く鍵の1つになり得るものと考えますが、そのためには、受け入れる農家や施設、団体、事業を担う人材確保など、体制整備に様々な課題があります。今後、地域資源を生かした農村体験等の情報発信に努めるとともに、農泊事業等の事例を注視し、研究していきます。

Q近隣で先行して農泊に取り組む滑川町や寄居町との連携で、広



魅力的な「農」を生かした取組の推進を

域的なアプローチが可能になると捉えているが、見解を。
A政策推進課長 当町で行われている農業と観光を結びつけた独自の取組等を精査し、協議会の立ち上げや、県内の活動組織との連携について研究します。
●その他の質問
発達障害に寄り添うまちづくり

鎌倉街道上道



たかはし さとる 高橋 功人議員
が町に問う！

**歴史的遺構の
保存と活用を**
答弁 おがわ学などに
生かせるか検討します

含めて、県の指導や近隣町村と連携して保存に努めます。
Q保存の意義や意味を後世に伝えていくには活用が重要と捉えているが、「おがわ学」に生かすことはできないか。
A教育長 町の他の歴史的資源を含め、鎌倉街道上道が「おがわ学」などに生かせるか、検討を進めます。

Q鎌倉街道上道に限らず、国や県の指定史跡になった場合、町にどのようなメリットはあるか。
A生涯学習課長 指定文化財件数は、地方交付税の算定に用いられ、保存等に要する経費が特別交付税で措置されます。

Q当町には、約100件の指定文化財があるが、特別交付税はどのくらい措置されているか。
A政策推進課長 令和3年度は631万円です。

Q伊勢根地区の鎌倉街道上道は、国の史跡に認定された毛呂山町の街道に引けを取らないとの意見もあるが、地元の理解を得ながら一層の保存と活用を図れないか。
A生涯学習課長 県の計画では史跡等のネットワーク化の重要性がうたわれています。鎌倉街道も



教育や観光資源として積極的な活用を

太陽光発電



ささもと たかゆき 笹本 孝幸議員
が町に問う！

**事業所の貯水池
の安全性は**
答弁 基準に基づき設計
したと聞いています

況と、組立てる職人の後継者の現状は。
Aにぎわい創出課長 明治17年から明治27年の間に建造された5基が5行政区で、町有形民俗文化財として保存されています。今後、組立てをする後継者をどのように引き継ぐかが課題ですが、後世に引き継ぐためにも、その保存活用について、取り組んでいきます。

Q下里地区太陽光発電事業所の貯水池の擁壁の安全性は。
A環境農林課長 安全性や決壊防止対策として堤体(擁壁部分の盛土)の中に現場内の土砂を入れた大型の土嚢袋を千鳥配置で設置しています。また、堤体の上部の法面(傾斜した土留め部分)には風雨、凍土などによる浸食を防ぐため、張芝等で保護する計画になっています。

Q堤体の安全性の確認は。
A環境農林課長 事業者から公益社団法人日本河川協会の発行する「防災調整池等技術基準」により、安全性を考慮し設計したものと説明を受けています。

第74回小川町セタまつり
Q今回、屋台(山車)が2日間
にわたって練り歩いたが、保管状



大型土嚢袋が千鳥配置された堤体外見

久しぶりの和紙マラソン、楽しみです。日本中から小川町に集合できる日がきてよかった。(M・Sさん 69歳)



種目の工夫、感染対策による開催を喜んでます。大会はランナーの励み、応援者は元気をもらいます。(O・Bさん 70代)



念願の親子マラソン…
上の子の分まで頑張ります！
(N・Tさん 40歳)



Vol.19
3年ぶりの和紙マラソン
あなたの想いは

Mini Interview P15までつづきます！
オガワマチのこと・ギカイのこと
「一緒に見よう、考えよう」

地域通貨



かさはらのりひろ
笠原規弘議員
が町に問う！

デジタル地域通貨の研究を

答弁 導入について商工会と研究します

Q 財務省は、一定の条件を満たすことで自治体等が発行する商品券の複数回利用を適法と示した。町内における商品券の複数回利用の検討は、地域内の経済循環にもつながるのではないかと。

A にぎわい創出課長 次回実施の機会を得た際には、商工会と連携を図り検討します。

Q 深谷市は電子通貨「ネギー」をスタートした。当町でも研究を。

A にぎわい創出課長 地域通貨のデジタル化について、商工会と連携し、導入について研究を進めていきます。

コロナ禍のセタまつり

Q 庁舎前の通りに竹飾り用の穴を施工し、安全性が向上した。他の区域への拡充を願うが。



あの日、あの時の竹飾りのトンネルを

町民会館



たかはし
高橋さゆり議員
が町に問う！

大ホールの今後の在り方は

答弁 施設の機能やニーズを考慮し検討します

Q 空調設備の老朽化で、大ホール棟は使用できない状況にあるが、「文化の拠点」としての役割や、目的の達成などに支障はないか。

A 生涯学習課長 大ホールで行われるようなコンサートや大規模な集会等は、屋外ステージを活用するなど、事業の実施に工夫を凝らしながら取り組んでいきます。

Q アセットマネジメントの観点から、今後の施設の在り方等は。

A 政策推進課長ほか 施設の耐震化をはじめ、空調や音響、照明などの設備改修が必要です。あくまでも令和元年度での試算ですが、最低限の改修費用として約6億円を見込んでいます。また、仮に大ホール棟を取り壊す場合の費用としては、1億2000万円とのことです。現状においても地震の際



耐震に不安が残る大ホール棟

買い物支援



いぐちりょういち
井口亮一議員
が町に問う！

移住・定住支援策としては

答弁 「買い物に困らない町」として期待します

Q 町内にあるスーパーマーケットがネットスーパーのサービスを開始したが、町民生活への影響は。

A にぎわい創出課長 このサービス開始は町民の買い物にかかる選択肢を広げるものであり、利便性の向上や感染症拡大防止効果はもとより、「買い物に困らない町」として好影響が期待できるものです。

A にぎわい創出課長 このようなサービスがあることで、買い物に安心してできると、町への移住・定住を考えてもらえることも期待されます。配送料や手数料の補助については、同種のサービスとのバランスなどを注視して、研究していきます。

●その他の質問
アウトレットにシャトルバスを

Q 利用者が負担する配送料や手数料を町が助成する買い物支援は。



ネット・スーパーのサービスが始まりました

移住・定住



たなかてるこ
田中照子議員
が町に問う！

移住から定住に必要な事は

答弁 周囲の住民との人間関係の構築です

Q 移住サポートセンターのさらなる充実に向けた取組は。

A 政策推進課長 観光案内所との連携を図りつつ、町のPRを継続するとともに、移住先となる物件を把握するため、不動産業者での物件調査、現地訪問調査等も積極的に行っていきます。

Q 空き店舗等活用補助金の令和4年度の実績等は。

A にぎわい創出課長 現在、5件程度の相談はありましたが、申請は1件です。今後、当初予算以上の申請があった場合は、財政状況をみて増額を検討します。

Q 移住から定住には何が必要だと考えるか。

A 政策推進課長 移住者のアンケートで、移住の際に重視したことは「自然に囲まれた生活・有機



人が人を呼び、新たなイベントも

小川町議会だよりは

文字にコダワル！

高齢者や視覚の弱い方にも読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用します！

つづく！

仕事で1度も見られなかったけど、よかったですね。(K・Nさん 79歳)



10kmがなくなってしまったので、人生初のハーフに挑戦!! (H・Yさん 51歳)



今年も10kmがあれば挑戦したかったけど、今回は5kmにします。運動不足解消だあ! (K・Tさん 23歳)



今回は思い切ってハーフに挑戦します! 走り切れないかもしれないけど、精一杯頑張る! 豚汁... (S・Mさん 24歳)



資産管理。不動産形成や運用、保全を行う業務



いなむらじょうじ
稲村 穰治 議員
が町に問う！

RVパーク

**再整備する
道の駅に併設を**
答弁 地域活性化の一つ
の方策と捉えています

Q リニューアル予定の道の駅にRVパークの併設を。

A にぎわい創出課長 キャンピングカーでの車中泊は、密を避けてレジャーを楽しめ、リモートワークや災害時の避難手段としても活用の可能性を感じています。RVパーク設置は、地域活性化の上で二つの方策ではないかと捉えています。

Q 県内の道の駅でRVパークを併設した所はない。だからこそこれは当町に人を呼び込むチャンスと考えるが。

A にぎわい創出課長 町としてもチャンスを含むと考えています。

Q ニーズは確実にある。新しいムーブメントを起せれば、交流人口、移住者増加にもつながる。他の自治体が行っていないこと。「攻めてる田舎小川町」が新たな

挑戦をする時ではないか。

A にぎわい創出課長 他の自治体が行っていないことなので、話題性、集客が期待できます。具体的な案として、選定中の道の駅管理運営候補者とともに、検討を進めていきたいと考えています。

●その他の質問

公式フェイスブックの活用を大型野外ステージの建設を



リニューアル予定の道の駅



すずきひでなお
鈴木 秀尚 議員
が町に問う！

学校再編

**段階的な再編
とする計画を**
答弁 様々な観点を踏まえ計画を策定します

Q 学校再編等審議会の答申では、「中学校は1校・小学校は東西に1校ずつ計2校」とするものである。長期計画にはもう少し段階的な再編となるよう求めるが。

A 学校教育課長 学校再編については、適正な学校規模や一定規模以上の学級数の確保が、教育環境の質の改善につながる重要な点であると捉えています。長期計画にあつては、段階的な統合も含め、様々な観点から再編を考え、策定に取り組んでいきます。

Q 小規模校として、より良い実践を積み重ねてから再編を進めても遅くはないと捉えているが。

A 学校教育課長 児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合ったり切磋琢磨したりと、それらの活動を通して、資質や能力を

伸ばしていくことが学校の特質であると捉えています。また、小規模な中学校においては、部活動の選択肢が限られるだけでなく、技能教科（音楽・美術・技術家庭）の教員配置が難しくなるといったデメリットも考えられます。

●その他の質問

デマンドタクシーの利便性向上をゼロカーボンシティの実現は



一部の中学生は、この坂が通学路に



ほんだしげのぶ
本多 重信 議員
が町に問う！

学校給食費

**全額公費負担
とすべきでは**
答弁 食材費は利用者の負担が基本です

Q 「義務教育の無償」の原則から、学校給食費について、全額を公費負担とすべきでは。また、昨今の社会経済情勢から考えても、個人負担の見直しが必要では。

A 副町長ほか 食材に係る費用は、利用者の負担が基本と考えています。また、昨今の物価高騰による食材費の値上がり分については、保護者負担ではなく、子育て世帯の支援となるよう公費で賄っています。今後も他団体の情報収集に努めていきます。

●その他の質問

農業用ため池の「農業遺産登録」



長期間コロナ対策に貢献する地元医療機関



いがらしやすひろ
五十嵐 康博 議員
が町に問う！

空き家対策

**除却等に補助
の考えは**
答弁 先進事例を参考に研究します

Q 衛生上、著しく有害だった倒壊の恐れがある空き家に対して町はどんな対処が可能か。

A 都市政策課長 固定資産税等の情報から所有者を把握し、適正管理の案内を出します。対応してもらえない場合は、直接訪ねて話をします。それでも対応してもらえない場合、特定空き家へと指定し、最終的には「行政代執行」という処置を取る方法もあります。

Q 所有者が不明で適正管理の案内が出せないケースは発生していないか。

A 都市政策課長 そのような状況も想定されますが、現在のところはありません。

Q 空き家対策は、利活用や除却等、所有者の早期決断が重要と捉えている。今後の少子高齢化に

A 都市政策課長 個人資産への補助の是非と、空き家対策のメリット等、先進事例を参考に研究します。



空き家の総合窓口は都市政策課です



小川町議会だより

写真にコダワル！

写真は編集委員が「撮る」「選ぶ」。キャプション（写真説明）も工夫します。

ケガをしないように走って下さい。
応援しています！
(O・Aさん 70代)

歩かず5キロ走り切ります！
(Y・Mさん 20代)

ウイズコロナでの開催。町・有志の努力に感謝！県内外の選手の熱い戦いに期待します。
(A・Mさん 80歳)

町の大きなイベントが再開される
ことになってよかった。
(Y・Oさん 38歳)

Back to おがわぎかい No.104

議会だよりを読んだ感想を議員がインタビュー



これからも
応援します！

中村美枝子さん
(みどりが丘四丁目)
NAKAMURA Mieko

前号 (No.104) を読んだ率直な感想を

季節を感じさせるデザインが素敵で毎号楽しみにしています。孫娘たちと出かけた3年振りの「七夕まつり」の光景が表紙になっていましたね。紙面の随所に身近なテーマが散りばめられていて、自分事のように読みました。

——ズバリ、議会・議会だよりで物申す？！

2人の息子たちも巣立ち、現在は趣味のガーデニングに没頭しています。当時に比べると、【子どもの声】は少なくなっていました。議会だよりを通じて、役場や議会の皆さんが町の課題解決に努めていることが分かりました。これからも応援しています。

中村さんイチオシの記事は
P.2～3「町長インタビュー
と道の駅リニューアル関連」



Gikai's comment

P2-3見開きの特集記事は、毎号こだわりをもって編集しています。今後の紙面づくりもどうぞご期待！

わたしのコメント

町民の声、「聴きます×つなぎます」

だから 小川が好き！

町への想いを寄稿していただくコーナー

小川町今昔物語り
小川町大好き！

山下勝三さん
(松若町)

YAMASHITA Shouzou



行政区松若町は町の中央に位置し、現在戸数は15軒で町で一番小さな行政区です。今から70年前は戸数50軒余り、ほとんどが商家で蹄鉄屋、櫛屋、桶屋、紺屋、足袋屋等が軒を連ねて活気のある町でした。戦後70余年、私たちの生活は豊かで便利な生活になりました。

小川町で昔と変わらないのは、町の中央を流れる槻川と盆地を取り巻く山脈み谷間には田畑が開け、何百年も続く農業や和紙作りなどが営まれています。町の人たちの暮らしを、遠い外国の人たちもカメラを片手に町の散策をしています。近年、人々の健康づくりから官ノ倉山を始め、小高い山へのハイキングに訪れる人が増えています。町を訪れた人にとっては、道端の祠や石造物など、全てが珍しいのです。そこに住む私は温かい心で迎え、ともに「小川町大好き」の絆になってもらうことでしよう。

次の定例会は

11月30日(水)～

午前10時開会

※日程は変更になる場合があります。詳しくは
小川町ホームページへ



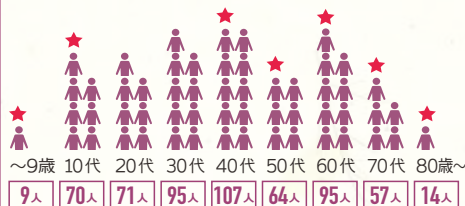
議員の

議員がインタビューした町民皆さんの数

聴く×つなぐ (★印は今号取材)

582人

※No.80以降の合計人数



●今号の表紙●

来春に有機農業家デビュー！！

小川町の有機農業にあこがれ、移住して来た中島ファミリー。もうすぐ4人目の子どもが誕生予定。ご活躍を期待します。



編集後記 今回も編集会議は長時間にわたる議論の場となりました。特に決算議会後ということもあり、特集をはじめ、質疑の選択や内容の確認など、いつも以上に気を引き締めて委員会に臨みました。是非、最後までお読み下さい。(笹本)

発行責任者：小川町議会議長 山口勝士

編集：議会広報発行特別委員会

委員長 高橋功人 副委員長 田中照子
委員 高瀬 勉・笹本孝幸・五十嵐康博
稲村壤治

UD
FONT



高齢者や視覚の弱い方にも配慮したUD (ユニバーサルデザイン) フォントを使用しています